

令和6年度 第1回木更津市文化財保護審議会 審議録

- 1 会議名 令和6年度 第1回木更津市文化財保護審議会
- 2 開催日時 令和6年7月29日（月）午後2時00分～4時00分
- 3 開催場所 木更津市郷土博物館金のすず 集会室
- 4 出席者 文化財保護審議会委員 出席5名
古泉委員（会長）・高崎委員（副会長）
笹生委員・御巫委員・黒田委員
教育委員会事務局 5名
廣部教育長・小高教育部長・水越教育部次長兼文化課長・
酒巻課長補佐・齋藤副主幹
郷土博物館金のすず 4名
佐藤館長・松本副館長・依田主査・寺原主任主事
- 5 会議内容 審議事項
第1号 木更津市指定文化財の指定について（諮問・答申）
報告事項
第1号 木更津市指定文化財「中越遺跡出土小銅鐸」の現状変更について
第2号 木更津市立金田小学校旧校舎の建物調査について
第3号 令和5年度木更津市史編さん事業の成果について
第4号 木更津市指定文化財「旧安西家住宅」の現状について
視 察 木更津市郷土博物館金のすず 常設展示
- 6 公開・非公開の別 公 開
- 7 傍 聴 人 なし
- 8 議事進行
酒巻補佐 定刻となりました。只今より、令和6年度第1回文化財保護審議会を開催いたします。開催に際し、本日の会議について報告させていただきます。
本日は、委員の半数を超える全員のご出席をいただきましたので、木更津市文化財保護条例第20条第2項の規定により、本会議は成立している事をご報告いたします。
また、「木更津市審議会等の会議の公開に関する条例」により、本日の審議会の議事等は公開で行う旨を併せて、ご報告いたします。
なお、議事録作成のため会議の内容を録音させていただきますことをご了承願います。
はじめに、4月より事務局も新しい体制となりましたので、職員を紹介いたします。
【職員紹介 廣部教育長より齋藤副主幹まで5名】

また、本日の会議にあたり、傍聴人の方はおられません。

それでは次第に従いまして、はじめに古泉会長からご挨拶をお願いいたします。

【古泉会長挨拶】

酒巻補佐 ありがとうございました。引き続き、廣部教育長よりご挨拶申し上げます。

【廣部教育長挨拶】

酒巻補佐 ありがとうございました。それでは、木更津市文化財保護条例第 19 条第 3 項の規程により、「会長は、審議会を代表し、その会務を総理する。」こととなっておりますので、議長を会長にお願いするものといたします。よろしくお願いいたします。

古泉会長 それでは、議長を務めさせていただきます。委員の皆様には、議事の円滑なる進行に、ご協力をお願いします。

令和 6 年度第 1 回木更津市文化財保護審議会の審議を進めてまいります。まず、事務局へ本日の議事についての説明を求めます。

酒巻補佐 はい、本日の提出議案は、お手元の資料にありますとおり、審議事項 1 件、報告事項 4 件となっております。さらに当館の常設展示をご視察いただきたいと思います。

古泉会長 それでは審議に移ります。議案第 1 号は「木更津市指定文化財の指定について」の諮問・答申となっております。事務局から議案についての説明をお願いします。

酒巻補佐 はい、審議事項として、第 1 号「木更津市指定文化財の指定について」でございます。本件につきまして、昨年度より「マミヤク遺跡出土子持勾玉」の、指定文化財としての可否についてご審議頂き、指定文化財として相応しいとのご判断をいただいております。このような経緯を踏まえ、議案第 1 号で諮問をさせていただきます。ご審議の程よろしくお願いいたします。

古泉会長 それでは、諮問内容について事務局の説明を求めます。

酒巻補佐 議案第 1 号「木更津市指定文化財の指定について」、木更津市文化財保護条例第 4 条第 3 項の規定に基づき木更津市教育委員会から木更津市文化財保護審議会へ諮問させていただきたいと存じます。

諮問書を教育長より木更津市文化財保護審議会長にお渡しいたしますので、よろしくお願いいたします。

【古泉会長・廣部教育長 正面へ】

【教育長 諮問書を読み上げ】

【会 長 諮問書を受け取り】

古泉会長 只今、教育委員会から諮問がありました。令和 6 年 7 月 29 日付け木教

文第 233 号「木更津市指定文化財の指定について」を審議いたします。

事務局からの説明を求めます。

酒巻補佐 資料 1 ページのとおり、昨年度、第 1 回審議会で委員の皆様には、実物資料をご覧いただきました。また、第 2 回審議会では笹生委員に資料概要報告書の作成をお願いいたしました。これまでの経緯について、ご確認いただければと思います。

古泉会長 ありがとうございます。只今、事務局から本件について説明がありましたが、ご意見等ございましたらご発言願います。

【意見を聴取する】

ありがとうございます。本件につきましては、これまで委員の皆様方にはご審議いただき、市指定文化財に相応しいとの認識を得られたと思われま。それではここで、質疑終局と認め、議案第 1 号についての採決に入ります。

お諮りいたします。議案第 1 号「木更津市指定文化財の指定について」「マミヤク遺跡出土子持勾玉」を市指定文化財に指定することについて賛成の方は挙手をお願いします。挙手全員です。よって本件は可決されました。

「マミヤク遺跡出土子持勾玉」を市指定文化財に指定することについて皆様のご了解をいただきましたが、答申書の作成についていかが取り扱いますか。事務局の考えがあれば聞かせてください。

酒巻補佐 しばらくお時間をいただければ、答申書（案）を作成し、お示しさせていただきますと思います。

古泉会長 事務局からこの後、答申書（案）を作成するとのことですがいかがでしょうか。

【異議なし】

よろしければ、答申書（案）が作成でき次第、協議を再開します。事務局は答申書（案）の作成をお願いします。

【答申書（案）を作成し、全委員に配布】

答申書（案）が出来ましたので、協議を再開させていただきます。

事務局には配布した答申書（案）について説明をお願いします。

酒巻補佐 答申書（案）を読み上げます。

【答申書（案）を読み上げ】

古泉会長 それでは、お諮りいたします。ただいま事務局から読み上げられた答申書（案）に賛成の方は挙手をお願いします。

挙手全員です。よって本答申書（案）から（案）を除き、正式に教育委員会に答申することといたします。

正式な答申書を作成していただく間、再度休憩とします。

【答申書の作成後議長に手渡す】

古泉会長 答申書が作成されたようですので、審議を再開します。諮問がありました「木更津市指定文化財の指定について」木更津市文化財審議会は、本答申書により木更津市教育委員会へ答申するものいたします。

【議長・教育長 正面へ】

【古泉会長から教育長へ答申書を読み上げ手渡す】

只今、答申書をお渡ししました。本件に係る今後の事務手続きにつきまして事務局から説明をお願いします。

酒巻補佐 本件につきまして今後の事務手続きについて説明申し上げます。9月24日開催の教育委員会会議定例会に議案として、提出させていただきます。教育委員会会議での承認を受けて、正式に木更津市指定文化財に指定されることとなります。

その後、指定について市広報等で周知するとともに、文化財保護法第182条の規定に基づき文化庁長官へ報告いたします。

以上が今後の関連の手続きとなります。

古泉会長 ありがとうございました。お手数ですがよろしくお願いします。それでは、議案第1号「木更津市指定文化財の指定について」に関する審議を終了させていただきます。

以上で今回上程された審議事項は終了となります。

続きまして、報告事項として4件あるようですが、事務局から説明を求めます。

酒巻補佐 報告事項には、博物館と関連があるものが含まれるため、ここからは、博物館職員も審議に加わります。本館も4月より新しい体制となりましたので、職員を紹介いたします。

【職員紹介 佐藤館長より寺原主任主事まで4名】

それでは、はじめに報告第1号木更津市指定文化財「中越遺跡出土小銅鐸」現状変更についてでございます。詳細につきましては、担当からご説明いたします。

齋藤副主幹 お手元にお配りしました資料の4ページになります。木更津市指定文化財「中越遺跡出土小銅鐸 附石製舌」について、所在の場所の変更がありましたのでご報告いたします。

公益財団法人千葉県教育振興財団が行う、設立50周年記念事業「地中からのメッセージ～旧石器・縄文・弥生～」の記念展示のため、貸出しをしました。貸出期間は令和6年5月27日～令和7年3月21日で、その期間中で、2会場で展示が行われます。展示期間と会場は、令和6年9月21日（土）～11月17日（日）に県立房総のむら風土記の丘資料館、12月21日（土）～令和7年2月9日（日）に県立中央博物館となります。

古泉会長 只今の報告について、ご質問等はございませんか。ご質問等ございましたらご発言をお願いします。

【質疑応答なし】

酒巻補佐 続きまして、報告第2号木更津市立金田小学校旧校舎の建物調査についてでございます。詳細につきましては、担当からご説明いたします。

齋藤副主幹 お手元にお配りしました資料の5ページになります。木更津市立金田小学校旧校舎につきましては、文化財指定を見送ることとなり、新校舎建設のため、令和7年度に取り壊しを行うことになりました。校舎の解体前に、市史近現代部会の委員による校舎内部の調査を行うことになり、6月12日（水）と7月10日（水）に行いました。その際に、旧校舎内部の見学について、事務局から委員のみなさまへご連絡いたしました。6月12日には黒田委員、7月10日には古泉会長に現地をご視察いただきました。

古泉会長 只今の報告について、何かご質問等はございませんか。本審議会からは、先日、私と黒田委員が現地を視察いたしました。

私は7月10日に市史の近現代部会の方々に同行しまして、旧校舎（第5校舎）の1階部分の調査を見せいただきました。中に入ってみると、校舎の床の部分が、階段を降りるとわかりますが、階段の1段目の高さが2段、3段目の高さと同じですね。従って、床のかさ上げをしたらどう。部会の方々は、そのかさ上げ工事の調査をしていましたね。そういう、工事による校舎の変化、それに対応する学校日誌などの資料を見たらいいのではないかとということで、学校日誌の記載と照合するような作業をしていました。学校日誌は永久保存ですから、それを写真に撮っていましたから、恐らくそれと照合するのだろーと思いました。旧校舎（第5校舎）についてはRC構造で、昭和3年に落成して、昭和34年には防音工事が終わっているということで、かなりの改築や、教室内の改造が行われているということがよくわかりました。防音工事がかなり大掛かりに行われていまして、その痕跡がかなり残っていました。

木更津には海軍航空隊の軍事基地があり、それで栄えた土地でもありましたが、その後進駐軍の管理下になって、私が小学校の低学年、その頃と思いますが、ジェット戦闘機が、木更津沖には空母が入りませんから、小さい船で1機ずつ運ばれてきて、旧海軍航空隊の基地、滑走路に降ろされていたのを見たことがあります。そこで、米軍のジェット戦闘機のタッチアンドゴーの訓練をしていましたね。その訓練の騒音がすごいものですから、恐らく市内の学校の防音工事が盛んに行われたのではないかと思います。見学させていただいて大変勉強になりました。ありがとうございました。

笹生委員 これは基本的に保存できないということで、解体という前提になるの

で、そうなってくると資料保存となってくるのですが、今、古泉会長がおっしゃったような歴史というのも、木更津にとって非常に重要な歴史になるので、1つは耐震建設の実例、もう1つは戦中から戦後にかけての基地との関りについての成果を、具体的なもので表している。今のお話を聞いていますと、やはり取り壊しというのは、かなり問題があるかなと思っているのですが、それをどうしても、生徒数の増加ということもあって、対応せざるをえないということでしたら、そのあたりを図面なり復元可能な資料として、特に図面もしくは3Dデータで、今は写真を多用することで3Dデータとして再現することも可能なので、そのようなデータによる保存というのは、市史の方でも考えているのかもしれませんが、もののデータをどのくらい保存する方向なのか、今は簡単に写真をかなり撮れば、そのあたりの方策をとるべきではないかと思っています。

ですから、この床のかさ上げや、防音工事の問題も含めて、それは、特に防音や耐震の問題は災害教育から考えても、金田はどういう場所かを考える上でも、木更津市にとっても非常に重要な情報であると思います。それを昭和初期にどのような形で対応したのか、これが基地との関わりの中で改造が加えられていくという歴史ですね。それらをかなり具体的に復元できるようなデータで、残すべきではないか。ものが残せないのであれば、データで残すべきではないかと思うのですが、そのあたりはいかがお考えなのでしょうか。

古泉会長 このあたりは、市史編さん事業の活動との関わりがありますが、いかがでしょうか。

黒田委員 私は6月12日に学校を視察させていただきました。古泉会長、笹生委員のお話を含めてなんですが、調査を担当していただいた方々の記録保存の現場を、私ども視察させていただいたのですが、震災復興小学校の典型として建築当時の跡が残っている所と、その後の改造、改築した部分の典型的な例としての教室、この写真（資料P5上段）のところが特にそのようなのですけれど、スケールで各部を測定して記録、保存するという作業をされていて、その計測値を全て、いろいろな部分の記録というものを作られていました。今後それをどのような形で活用するのかというところの問題なのかなと感じました。

酒巻補佐 金田小学校旧校舎につきましては、文化財指定を見送りまして、その代わりに、記録保存を充実させるというご説明を以前からさせていただいておりますし、市史のメンバーの方々にも、そのことはわかっているというしております。やはり壊してしまうことはもったいないことですが、なるべく記録を多く取って市史編さん事業に活かしていきたいというお話はこれまでもさせていただいております。本日委員の皆様から頂きました

ご意見は、市史の方々にもお伝えいたしますし、何ができるか考えていきたいと思います。現在行っている校舎内部の調査成果に、以前行った建物外観の調査、学校に保管されている関連文書類の調査成果を合わせ、総合的に編さん事業に反映していくことができればと考えております。

笹生委員 やはり、外観を3Dデータで復元できるようにする必要もあるのかなと思うのと、壊してしまうことになりますから、例えばコンクリートの中の鉄筋の大きさとか太さ、それから密度ですね、そういうものも当時の耐震技術を考える上でも、内部の鉄筋やコンクリートの様子を含めてデータを取っていただいて、これはある意味防災ですね。金田地区の防災という意味でもデータを取るということについては、市民の皆さんの理解を得られると思います。金田地区は関東大震災の時も結構被害を受けていると思います。非常に沖積層が深いところですので、大きな被害があったかもしれない。それを当時どうしていたのか、今後どのように対応していくのかというデータになると思います。是非その点、慎重に対応いただければと思います。

古泉会長 それはとても大事なことですよね。災害について、東京都は特に防災都市としての価値を高めることが非常に重要なことと言っています。内部を見せていただいた時（資料P5下段）に、市史の方々が、床のかさ上げ工事については、どうも防音工事と関係がありそうだと言っていました。要するに外はもともと土間だったみたいですね。そこに床をかさ上げするために、工事をしているのですが、昔の木材で作られているようですね。その中に昔の木造校舎の梁が使われているんですね。それを使ってかさ上げをしている。そういう興味深い問題を調べていましたね。防音工事の関係があったから、校舎にいろいろと手を加えているのですよ。その秘密を探るということは、おもしろいことと思いました。

高崎委員 ちょっと記憶が薄れているのですが、以前、指定に向けて議論していく中で、結局解体は延ばせないということになって、指定取り消しになりましたが、あの時にできれば移築が可能なら移築をとった覚えがあるのですけれど、それも多分かなわないのですよね。

理由は多分予算と思いますが、ですから先ほど笹生委員がおっしゃたように、今のいろいろな技術を使って、きちんと記録は残さない。それを適当にやってお茶を濁したのでは、何のためにあの時、指定するか否かの議論したのが全く無駄になってしまうので、それについてと、また特徴的な階段の手摺りなどをモニュメントとして、学校の大事な金田小の歴史の中の一部ですから、どこかに残して、ガラスケースに入れてモニュメントとして残して、少し説明を加えて、時代が経ってもこういうのがあったのだなとして欲しいと思います。モニュメント程度でしたら、お金も

そんなにかからないと思うので、それをお願いしたいと思います。

古泉会長 金田小学校の今の鉄筋校舎は壊さないのですか。あれは使いますか。
小高部長 現在使っているところですか。その校舎については、そのまま使います
古泉会長 では、増築ということになりますか。
小高部長 今後、児童数が増えてくれば、そのようになります。
古泉会長 わかりました。只今の審議の内容について、いろいろと大変ですが、よろしく願います。

酒巻補佐 続きまして、第3号令和5年度木更津市史編さん事業の成果について
でございます。詳細につきましては、担当からご説明いたします。

齋藤副主幹 お手元にお配りしました、資料の6～8ページになります。市史編さん
事業では、現在、8つの市史編さん部会が編さん作業を行っています。刊
行計画では令和12年度までに、自然編、史料編、通史編、民俗調査報告
書を刊行する予定になっています。

昨年度、令和5年度に刊行、公開しましたのは、古代の木更津市につい
ての史料を集めた、「史料編4 古代」と、木更津市史デジタルアーカイブで
公開した「自然編資料」になります。「自然編資料」は、木更津市の特徴ある
自然を記録した資料になっています。その自然編資料については、今年度、
令和6年度に、冊子で刊行をいたします。

「自然編資料」は、木更津市史デジタルアーカイブで公開しております
ので、どなたでもご覧になることができます。

【アーカイブの「自然編資料」を投影して内容と操作法を説明】

黒田委員 ビュワーは、画像でアップロードされていて、PDF形式ではないのです
か。文字で検索ができるとか、そのようになっていますか。

齋藤副主幹 中身はPDF形式で作っていますが、アーカイブはビューワー形式になっ
ています。見るだけになっています。

黒田委員 私たちが何かを調べるために史資料を使う時は、例えばデータを見て
キーワード検索をする、などのやり方で用いると思うのですが、画像形式
だけで公開されていると使いづらいかと思います。データの中でキーワ
ード検索などができるようにすると、使い勝手がいいと思います。

小高部長 ビュワー形式で表示されますが、キーワード検索ができるような設定
にはなっていないと思います。

古泉会長 デジタルアーカイブの作成は委託ですか。

齋藤副主幹 はい、作成については外部委託です。

黒田委員 今は画像の状態で載っているので、文字認識ができるような状態にし
ておくと、いろいろな人が見てくれるようになります。

笹生委員 検索で特定のワードが引っかかる方が、利用頻度は高くなると思いま
す。

- 黒田委員 自然のデータとか資料とかの場合ですと、中身の情報だけを調べている人たちも割と多いので、タイトルだけですと引っかけられないことが多かったりします。
- 御巫委員 たとえば、「いっせんぼく」と検索すると、出てきたところの色が変わって一覧に出てくるように表示されると利用者が格段に増えます。
- 笹生委員 そうすれば、検索エンジンにそのまま引っかかってくるですね。
- 黒田委員 たとえばフランスの国立図書館ですと、公開されている資料のデータをインターネットで検索できることが多くなっています。このアーカイブも同じようにできると、見る機会が増えると思います。
- 御巫委員 テキストデータの公開は、予定されているのですか。
- 齋藤副主幹 公開は、予定されておりません。
- 笹生委員 黒田委員のご意見は、利用頻度を高くするためのものです。
- 黒田委員 はい、そのためです。内容については問題ありません。
- 古泉会長 委員のみなさんの意見をもとに、できるだけ見やすくなるよう善処していただければと思います。只今の報告について、ほかにご質問等はございませんか。
- 私、最近気になっていることがあります。市史は自然編ですから、文化財保護審議会とは違いますけれど、この10年、20年はものすごい勢いで、自然環境の変化がとても大きいですね。私、木更津高専の近くに住んでいますけれども、セミがものすごく変わってしまっている。昔はいたニイニイゼミが今はほとんどいない。昔はいなかったクマゼミが多いですね。ものすごく昆虫の関係が変わっています。また、恐らく金田の干潟も変わっているのではないかと思いますね。植生も変わっているでしょうし、生息する魚とかも随分変わっているのではないかな。環境の大きな変化というものをどう市史に取り込むのか、今から50年、100年経った時に、あの頃には、こういうことがあったということがわかるような、市史がいいのではないかと思います。
- よろしいでしょうか、次に進めたいと思います。
- 酒巻補佐 続きまして、第4号「木更津市指定文化財旧安西家住宅の現状について」でございます。本件については、昨年度第2回の審議会で、委員の皆さまに現地をご視察いただきましたが、現状について、博物館の副館長からご説明いたします。
- 松本副館長 それでは、ご報告をさせていただきます。旧安西家住宅の状況につきましては、昨年度にも取り上げていただいているところですが、状況に変化が見られますので、少しお話をさせていただきます。今、ご覧になっているものは、3年前にシティプロモーション課がドローンで撮影した旧安西家住宅になります。次は、今年に入ってから映した屋根の状

況になります。もともと屋根の茅を鳥が抜いてしまったため、少し茅の間が抜けていた状況だったのですが、今年の春以降、コケが発生し始めまして、状況があまり良くないようになっております。この辺りは鳥が啄んでしまった範囲、屋根も薄くなっているのですが、この辺りはコケが少しずつ、緑色になってきまして、状況が変わってきています。

次に、住宅の内部ですが、土壁にひびやえぐり、剥離といった箇所が広間の囲炉裏付近ですとか、これは仏間の状況ですが、奥の間などに発生している状況です。これらは、少し前から見られましたが、今後しばらくの間、修理ができない状況でもありますので、気になっています。

特に屋根のほうですけれども、周辺の環境整備など、樹木の伐採や間引きをして、少し風通しを良くすることを検討したいと考えております。ご報告は、以上になります。ありがとうございました。

古泉会長 只今の報告について、ご質問等はございませんか。ご質問等ございましたらご発言をお願いします。

笹生委員 かなり屋根は厳しい状況ですね。コケも生えていますし、まだ差し茅で対応できますかね。放置しているとどんどん悪くなって行くので、専門の方に見てもらった方がいいですね。屋根の下の押鉾竹が見えている状況になってきてしまうので、私は建築の専門ではありませんが、差し茅をするにしても早めの方がいいのかな、県で文化財の担当をしていた時の経験から言うと、差し茅を本格的に考えたほうがいい、全面的な葺き替えはなかなか大変と思いますし、将来的には屋根をどのようにするのかということですね。茅材でやればいいのかですけど、物理的に茅が無いということで経費がかかる。特にコケが生えている、あれが芯のほうまで行ってしまうと雨漏りが始まってしまいます。ですから雨漏りが本格的にならないうちに、差し茅をするなり、専門の業者に見てもらう必要があると思います。内部ですが壁のクラックが気になります。あれは地震の影響でなったものか、自然では無いですよ。

【松本副館長よりクラックは地震の関係で生じたものと前任者から聞いている、破損箇所は少し高い位置のあるものが多いので、素人では判断が難しいとの説明あり】。

壁にクラックが入ったままですと、耐震的な問題もあり強度も落ちると思いますし、そこから湿気が入って行くと泥壁ですので、破損が進む可能性があります。応急でも一回対応しておいた方がいいのかなと思います。

古泉会長 今後、どうするのでしょうか。茅葺は30年くらいでダメでしょう。茅もありませんし、技術者もいませんということになると、莫大な費用がかかりますよね。行政としてそういう展望はあるのですか。まず無いでしょ

うね。壁のクラックの原因は地震、間違いなく地震ですよ。それと、屋根のコケは、おそらく屋根の中まで行っていますよ。

御巫委員 屋根が崩れかかっているせいで、湿気が中に入って土壁のクラックが広がってしまうというのが、一番たちが悪いと思います。

古泉会長 そういう危機的な状況にある。あれだけの規模を補修する、管理していくのはものすごい経費がかかりますよ。

笹生委員 屋根をどうするかですよ。屋根を残すのか最終的には躯体を保存していくのか、あるいは緊急避難的に、予算の問題もあると思いますから、何を保存していくべきなのか考えなくてははいけません。

古泉会長 修理について、何か計画的なものがありますか。

松本副館長 計画的なものは難しいです。屋根の修理にどれほどの経緯が必要なのか。見積もりはしたのですが、それによると、壁と屋根と両方合わせて5,000万円代です。動いてすぐにやってくれそうところが新潟県にあります。越乃かやぶきという業者ですが、写真を送って見積もってもらったところ、全額でそのくらいかかるとのことでした。

笹生委員 文化財として茅葺だけではなくて、壁の修理も考えなくてはいけないのですが、文化財の修理に対応している業者、県文化財課の時に私も関わったのが岩瀬建設というところですが、富津市竹岡の三柱神社（県指定文化財）など、修理の実績があります。そういうところのほうが、行政の事情もよく承知しているので、相談に乗ってくれると思います。場合によっては県の文化財課に聞いて、文化財建築の方でこういう状況だということを相談すれば、お金の問題よりも文化財の構造も含めての話になりますから、ただ葺くだけではなく、葺き方もあると思いますから、そのあたりも含めて県の文化財課に業者を確認してもらって、文化財修理ということで相談するのがいいと思います。

そのままやるのであれば、数千万円くらいはかかってしまうと考えられますから、屋根のベースを残しながら、場合によっては差し茅とかで、まず対応し様子をみては如何でしょうか。時間が経つと状況は悪くなりますから、そのあたりを含めてご検討いただければいいかなと思います。

古泉会長 早急にそのあたりは、ネットワークを活用していろいろな情報を集め、対応していただければと思います。ありがとうございました。

以上で本日の審議事項、および報告事項につきまして、終了いたしました。が、その他、委員からのご意見等ご発言はございませんか。

続きまして、博物館の常設展示の視察があるようですが、それでは、事務局よろしく願います。

酒巻補佐 この後30分間の予定で、博物館の常設展示をご視察いただきます。展示について、博物館の担当職員よりご説明いたします。ご視察後にこちら

に戻り、ご感想、ご意見をいただければと思います。

【常設展示を視察後に集会室へ戻り審議再開】

古泉会長 それでは、審議を再開いたします。只今ご視察いただいた、常設展示についてご感想、ご意見等をいただければと思います。委員の皆さん、いかがでしょうか。

笹生委員 私は、10 年近く國學院大學の博物館の館長をしております。そうしたことから感想ですが、木更津市の博物館の資料はすごくいいものが多く、一級品がかなり揃っているなと思っているのですが、なかなか見てもらえないのはなぜかという、やはり立地の問題があるので、こちらにどうやって人を呼んでくるかということなのです。大学の博物館は渋谷の駅から少し離れているのがマイナスなのですが、博物館で何をやったかと言うと、YouTube の動画で、こういうものがありますだけではなく、こういうような物語で、こういう資料を見ることができます、ストーリーに資料紹介をプラスしたような、あまり長くない、できれば 15 分位の動画で広報する。動画や SNS が効果的ですが、そういったものを使って、定期的に情報発信をすることが重要なのかと思います。やはり博物館に人が来てもらうことが大事ですので、広報をもう少し、やれる範囲でいいので進めてもらえればいいのかと、YouTube も SNS も外注するとお金がかかるので、大学の博物館では学芸員が自前でやっています。もう一つは義務教育の学校に見てもらい、小学校低学年用、高学年用の資料にストーリー性を持たせてセレクトする。文化財保護法でも活用のことを言っていると思いますけれど、いろいろなストーリー性のことで、特に古代の木更津は、先進文化の入ってくる、そういう場所でしたというようなストーリーを作る。

それと木更津の街並みのジオラマ模型の存在は重要ですね、街並みが昭和初期と今ではこれだけ違ってきている。やはり地形の問題が重要です。木更津の海の近くには砂州があって、古い段階の砂州には貝塚が、その西側の砂州には古墳が、海に近い砂州には中世以降の港町が広がって、それが今の木更津に発展してきているというストーリーがあります。砂州の連続の中でストーリーができます。これを市史でどのように記述するかは別にして、原始から現代までの通しのストーリーを作って、それに基づいて小学校低学年用、高学年用、中高生用の物語のパッケージを作って、それを学校に話をして、学校の先生も郷土の歴史だけではなく、歴史教育の中で積極的に使ってもらい。中央の歴史に関連するものも結構多いので、資料を活かさないのはもったいないなという状況を常々感じております。

それはやはり博物館のほうで、味付けをどうするか。食べやすく料理す

るか、材料はいっぱいある、高級食材がたくさんあるのですけれど、それをシェフが上手い具合に組み立てて、味付けをして、食べて下さいというのが、まさに博物館の技量だと思います。そのあたりを学校に提供する。一般向けには、長くなくてもいいので、SNS等で、こういうのをはじめましたとか、ここが見どころですとか、画像を付けて配信して、一定数に見てもらえるようになると、どんどん広がっていく。そうすると博物館に足を運ぶ人が増えると思います。そういう工夫をしたらいいのかなと。木更津市の博物館には、高級食材が並んでいるのですよ。高級和牛のブロックがいっぱい並んでいるのですけど、なかなかそれを料理する方法が見つからない。そのあたりの工夫を考えて行ったらと、こちらでも相談に乗れることがあると思います。

御巫委員

私は、県立中央博物館にいたのですが、もうじき開館 40 周年になるということで、リニューアルを少し考えています。急いで 10 年後位までのイメージですが、実際こちらの博物館のように、リニューアルで大がかりに変えているのを拝見すると、いろいろ考えさせられる、参考になることが多くありました。

それで以前もそう思ったのですが、こちらの博物館は、資料を露出する展示が多く、このような展示方法でも大丈夫なんだと思いました。うちの博物館では全部囲いすぎていて、全部ケースの中に入れすぎていて、見学者と展示品までの距離が遠くなってしまっているものも多いので、分野にもよりますが、露出展示でも大丈夫なんだというのと、資料が立て込んでいるのに、あの状態で子供さんたちが来て大丈夫なんだというのをイメージとして感じ取れました。勉強になりました。

黒田委員

私は西洋美術史が専門ですけれども、美術の資料にもすごくいいものがたくさんあるなど改めて思いました。ただそれが実際の本更津の歴史の中で、リンクされた資料として活用されていないのがすごくもったいないと思いました。例えば本更津で活躍した画家であれば、本更津で生活をしている中で創作をしているはずで、それが創られた時にこんなことがありましたということで、リンクができる資料もあるはずですね。美術作品とは、ただ作家の創意や個性が発露されただけのものではなくて、作品が制作された背景や制作者が生きた土地の歴史もつながっているものではないかと思っています。美術館ではなくて郷土博物館とか総合博物館の中に美術資料がある意味というのは、郷土や歴史などとより強くリンクさせて美術資料を活用できるという強みでもあると私は思っているのです、是非そういう形で、もっと活用の仕方というものを、いろいろと考えることができるのではないかと思います。

ですので、専門でないので美術品を扱うのが難しいというのであれば、

たとえば県の美術館などいろいろなところから、ご助言いただくとか、そういうのを含めて、美術資料の活用がより活性化されればと思いましたし、すごく良いものがたくさんあるということを、知ることができて良かったです。

高崎委員 6月の博物館協議会でも同じような意見が出ましたけれど、博物館の職員が年度替わりで大きく変わって、大変な状況というのはわかりますけれども、協議会で千葉大学の山田委員がおっしゃっていたことですが、人が多く集まるところに、展示ケース一つ持って行って、見てもらえるようにすると、それがきっかけとなって博物館に足を運ぶようになると思います。

新しく指定になります子持勾玉、あれは、なかなかすごいものですよ。実物を見れば一般の方でも何だろうと目を向けると思いますよ。あれを市役所の朝日庁舎ですとか、駅前の中央公民館ですとか、人が良く集まるところで、トピック的に見られるようにしておく。それにはあまり労力はいかからないと思いますよ。確か中央博物館でもミニ展示、トピック展示をよくやったという記憶があるのですが、企画展示などの展示は、時間がかかるとは思いますよ、そういったミニ展示でしたら、今の博物館のメンバーの雑談の中からの思い付きからできると思います。もちろんいろいろな規制はあると思いますが、指定文化財ですとやはり規制はあるのですか。

笹生委員 指定文化財ですとやはり、規制があります。國學院大學の博物館では、同じようなミニ展示を、渋谷の駅前のフクラスという商業施設で、東急から依頼があってやったのですが、その時は複製品、浮世絵ですとか装束の複製品を使ったので問題はありませんでした。やはり現物は盗難に遭う危険性もあり、今は何が起こるかわからないので、複製品など問題の無いものを展示する。そのような展示をするとやはり人が来てくれました。渋谷の駅前でミニ展示をやって、今博物館ではこういう展示をやっていますと宣伝すると、やはり人は来てくれます。バスに乗れば、大学の博物館に来ることができますので。

やはり現物の展示はお勧めできないのですが、複製品、関連資料、写真を含めて、古い写真は街並みの問題と関連してとても重要なもので、昭和21(1946)年に米軍が撮影した写真を大きくして、それに展示の内容を加えたものを、木更津駅前や朝日庁舎階下のイオンモールなどに掲示する。木更津の街の今あなたのいる場所はここで、こういう歴史がありますというような話をするのも重要だと思います。詳しくすぎるとハザードマップ的な要素が加わって、目的がずれるとも思います。昭和21年の空撮と関連する模型の展示で、木更津の街並みの変化をとらえる。今の市街地に住んでいる方には是非知っていただきたい情報であると思います。そ

うしたことを高崎先生もおっしゃったように、積極的に活用するのがいいのかなと思います。

御巫委員 子持勾玉を大きく出したパネル展示をして、博物館へどうぞというような方法が一番良いと思います。やはり、実物を出すと博物館の職員を出さなくてはならなくなり、人手が掛かってしまいます。パネルだけでしたらそのまま置いておけるので。中央博物館でも出前展示をするとそれだけ職員を取られてしまいます。博物館には人が大勢いるのでやりなさいという要請も来るのですが、職員の配置を考えるとやはりパネルだけを展示するのがいいと思います。

笹生委員 パネル展示も、子持勾玉がどこから出土したか。港南台の住宅地のど真ん中から出ているのですね。現在の木更津の市街地の地図に子持勾玉はここから出ました。請西地区を含めて、蔵骨器はここからでました。古墳は今でもここに残っています。東アジアで屈指のものが長須賀（金鈴塚古墳）から出土しています。それは、地元の人もびっくりすると思います。そういう情報を大きなパネルで出していく。そういう情報が良いかもしれませぬ。

古泉会長 本日は委員の皆さんから、幅広いご意見、博物館の課題というか、宿題が出たと思います。是非、動画、SNSでの広報、ミニチュア、模型などの活用、絵画、美術館的なものも、木更津の歴史とリンクさせて活用したらどうかという、いろいろなご意見がでました。これが宿題かと思います。委員の皆さんほかにかがでしょうか。ご意見等が無いようでしたら、以上で、本日の文化財保護審議会の審議を終了いたします。委員の皆様には、長時間ご審議いただき、ありがとうございました。それでは、議長の任を降ろさせていただき、進行を事務局にお返しいたします。

酒巻補佐 本日は大変お忙しい中、長時間ご審議いただきまして、誠にありがとうございました。次回の第2回木更津市文化財保護審議会につきましては、11月中の開催を予定しております。詳細につきましては、改めて、皆様のご都合をお伺いいたします。どうぞよろしくお願いいたします。本日は、ありがとうございました。

令和6年8月15日

議事録署名人 木更津市文化財保護審議会
会長 古泉 忠之 印